

4 月の天候の特徴

1 4月の気象

春のあらし

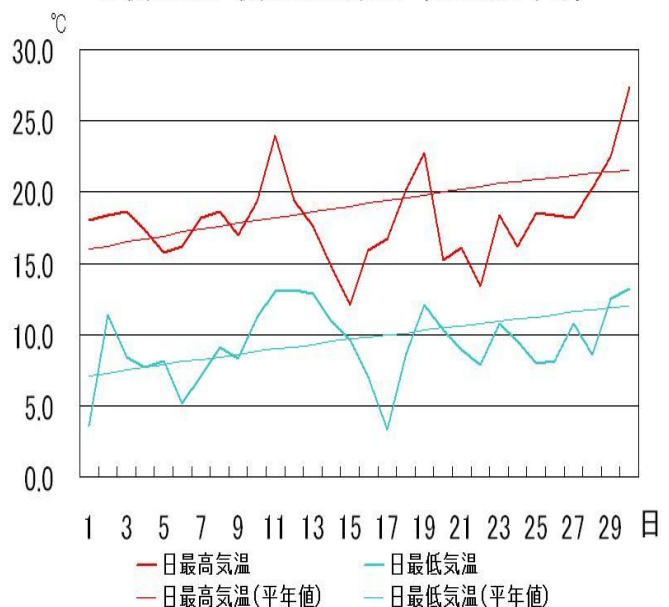
4月ともなると各地でさくらの花が満開（松山の平年日は4月5日）となり、花木や草花が色とりどりの花を咲かせ私たちを楽しませてくれます。春本番の温かい穏やかな季節のイメージです。

しかし、穏やかな天気ばかりではありません。低気圧が3日～4日位の間隔で西日本を通り天気は周期的に変化するようになります。この低気圧が日本海を発達しながら東進すると低気圧の南側では、南からの強風により山や海を中心に大荒れの天気になることがあります。また、低気圧からのびる寒冷前線が通過すると激しい雨やひょう、風の急変や気温の急降下といった短時間に大きな気象の変化が起こります。このため、強風や落雷、降ひょう等により、交通機関の乱れや停電、農作物への被害が発生することがあります。これが「春のあらし」とよばれるものです。

大きな気温の変動

この時期は気温の変動が大きいことも特徴です。右の図は平成18年4月の松山の日最高気温と日最低気温及びそれぞれの平年値を示したものです。4月11日には最高気温が24.0と5月下旬並みの初夏を思わす陽気になったかと思うと、4月17日には最低気温が3.3と3月上旬並みの気温まで下がり、上下2ヶ月以上の気温の開きがあります。

日最高気温・最低気温の経過 松山2006年4月



2 4月の気象災害

気象庁災害データベースによると最近の20年間（1987～2006）愛媛県で農業関係の気象災害は7件報告されています。

・林野火災

1989年4月11日 西条市で2.5ha

焼失

1989年4月16日 旧宮窪町で3.0ha 焼失

1996年4月5日～9日 西条市で8.0ha 焼失

1997年4月19日 旧丹原町で0.1ha、松山市で0.015ha 焼失

・霜害

1995年4月20日 松野町で農作物2haに被害、被害額250万円

2001年4月2日 旧内子町で柿の新芽に被害、被害額562万円

・ひょう害

1992年4月15日 南予地方 野菜や葉タバコ等に被害

3 ワンポイントメモ

生物季節観測

全国の気象台ではさくらの開花やせみの初鳴など動物や植物の状態が季節によって変化する現象について観測を行っています。これは、長期間観測をすることにより生物に及ぼす気候の影響や環境の変化及びその年の季節の遅れ進みなどを知ることができます。

植物について、松山地方気象台ではさくらは道後公園にある木を決めて（標本木）開花（5、6輪咲いた状態）、満開（全体の80%咲いた状態）を観測しています。また、構内では、うめ、つばき、たんぽぽ、のだぶじ、やまはぎ、あじさい、さるすべり、すすき等の開花を観測しています。その他、いちようといろはかえでの紅（黄）葉や落葉を観測しています。